

令和3年度
全国学力・学習状況調査
恵庭市の調査結果（報告）



令和4年3月
恵庭市教育委員会

目 次

1	調査の概要	1
2	「教科に関する調査」調査結果	
	（1）小・中学校各教科平均正答率の状況	4
	（2）教科別調査結果の詳細	
	① 小学校国語	5
	② 小学校算数	8
	③ 中学校国語	11
	④ 中学校数学	14
3	「生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査」調査結果	
	（1）小・中学校児童生徒質問紙調査結果の概要	18
	（2）学校質問紙調査の主な回答結果データ	23
4	総評	25

1 調査の概要

(1) 調査の目的

全国学力・学習状況調査は、以下①・②の取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立することを目的として実施されています。

- ① 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ② 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

(2) 調査の対象

- ・ 小学校6年生、義務教育学校前期課程6年生、特別支援学校小学部6年生
 - ・ 中学校3年生、義務教育学校後期課程3年生、中等教育学校3年生、特別支援学校中学部3年生
- ※ いずれの学年においても、全ての児童・生徒が対象です。

(3) 調査の方式

全国学力・学習状況調査の方式は「**悉皆（しっかい）調査**」です。

悉皆調査は「全数調査」などともいわれ、集まったデータ全てををれなく分析する調査のことです。（反対に、集まったデータの一部を抜き出して分析する調査は「標本調査」などといわれます。）

(4) 調査の内容

① 教科に関する調査（テスト）

令和3年度は、国語と算数（小学校6年生）又は数学（中学校3年生）が行われました。

平成31年度（令和元年度）から、国語と算数／数学の問題形式が変更【各教科ともA（主として「知識」に関する問題）・B（主として「活用」に関する問題）に分かれていたものが統合】となっています。

②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査（アンケート）

児童・生徒一人ひとりを対象とした調査と、各小・中学校を対象とした調査の2種類が行われました。

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査	・指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

（5）調査実施日

令和3年5月27日（木）

（6）調査を受けた児童・生徒数

単位(人)	小学校6年生		中学校3年生	
	国語	算数	国語	数学
恵庭市	614	615	584	583
全道(公立)	36,456	36,450	34,700	34,689
全国(公立)	993,975	994,101	903,157	903,253

※当日の参加人数

（7）調査の解釈にあたって留意いただきたいこと

本調査は、幅広く児童生徒の学力や学習状況等を把握することなどを目的に実施していますが、本年度に調査した教科は2教科のみであり、設問の内容も学習内容全てを網羅しているとは限りません。したがって、**調査の結果から分かるのは、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部分や、学校における教育活動の一側面に過ぎないこと**に十分ご留意ください。

（8）調査結果の掲載方法

「教科に関する調査（テスト）」の結果については、次のような方法で表示しています。

①教科ごとの平均正答率（％）

恵庭市の平均正答率は、全道・全国平均正答率との比較として、「記号」や「文言」で表します。

全国・全道平均との比較（ポイント差）	記号	文言
+5.0 以上	△	上回る
+2.0～+4.9	◇	やや上回る
-1.9～+1.9	≒	ほぼ同程度
-4.9～-2.0	◆	やや下回る
-5.0 以下	▼	下回る

恵庭市における「教科に関する調査」の平均正答率の数値については、他市町村との単純比較や序列化などに結びつき、調査の目的を損ないかねないとの考えから、公表していません。

同様の理由により、市内小・中学校ごとの結果数値についても公表していません。

②教科の具体的な領域や設問ごとの（平均）正答率（％）

①のような全道・全国平均との比較形式のほか、市の（平均）正答率についても「記号」や「文言」で表します。

市の（平均）正答率	記号	文言
80%以上	◎	相当できている
60%～79%	○	↑ ↓
50%～59%	●	
49%以下	・	課題がある

「教科に関する調査（テスト）」の結果と異なり、「生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査（アンケート）」の結果については、恵庭市の回答率をそのまま表示しています。

※教科の領域ごとの結果では「平均正答率」、個々の設問の結果では「正答率」を表します。

（9）調査問題・質問内容および国・北海道の調査結果報告書について

調査問題とその正答例、解説資料及び質問紙調査の内容については、文部科学省の所管する国立教育政策研究所のウェブサイトの下記のアドレスから、PDF形式でダウンロードすることができます。

- ・令和3年度 全国学力・学習状況調査の調査問題・正答例・解説資料について
⇒ <https://www.nier.go.jp/21chousa/21chousa.htm>

また、国（文部科学省・国立教育政策研究所）としての調査結果報告書についても、同様にダウンロードすることができます。

- ・調査結果報告書（国） ⇒ <http://www.nier.go.jp/21chousakekkahoukoku/index.html>

北海道教育委員会としての調査結果報告書については、下記のアドレスから、PDF形式でダウンロードすることができます。

- ・調査結果報告書（北海道）
⇒ <http://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/gky/gks/gakuryoku03/top/htm>

※上記に記載したウェブサイトのアドレスは、いずれも令和3年12月現在のものです。



2 「教科に関する調査」調査結果

(1) 小・中学校各教科平均正答率の状況

- 令和3年度の恵庭市の平均正答率は、中学校3年生の数学は全道平均をやや上回った。一方、小学校6年生の算数は全国平均をやや下回った。
- 平成26年度以降、全国平均との差が±5ポイント以内と、大きな差が見られない状況が続いている。

* 令和3年度 恵庭市小・中学校の各教科別平均正答率

		平均正答率				
		小学校6年生		中学校3年生		
R3	教科	国語	算数	国語	数学	英語
	恵庭市 (国と比較)	≒	◆	≒	≒	(実施なし)
	全国平均 (公立)	64.7%	70.2%	64.6%	57.2%	
	恵庭市 (道と比較)	≒	≒	≒	◇	
	全道平均 (公立)	63.2%	67.5%	64.5%	55.9%	
	正答率の 位置	道<市<国	道<市<国	道<国<市	道<国<市	
H31 (前回) ※参考	教科	国語	算数	国語	数学	英語
	恵庭市 (国と比較)	≒	◆	≒	≒	≒
	恵庭市 (道と比較)	◇	≒	≒	≒	◇
	正答率の 位置	道<国<市	市<道<国	道<国<市	道<市<国	道<国<市

記号の意味 比較先よりも平均正答率が…△上回る ◇やや上回る ≒ほぼ同程度 ◆やや下回る ▼下回る



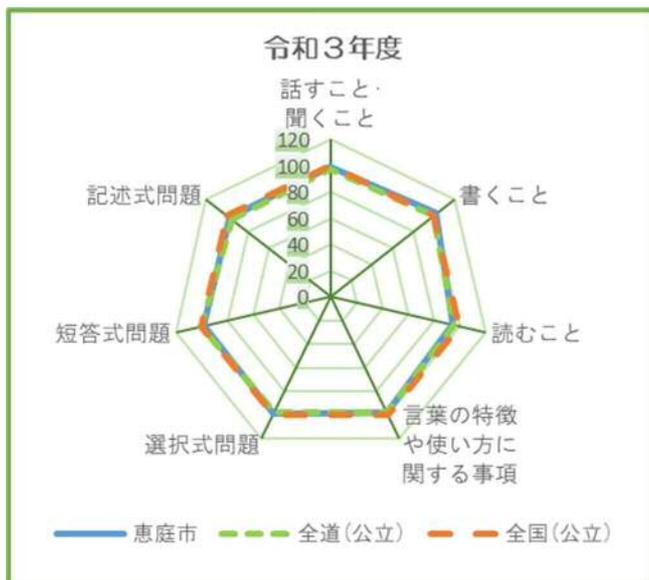
(2) 教科別調査結果の詳細

① 小学校 国語

解答時間45分・設問数14問

- 各領域等の平均正答率は、「話すこと・聞くこと」は全道をやや上回った。その他の分野については、全国・全道とほぼ同程度であった。
- 正答数が全国下位4分の1層の児童の割合は、全国より0.6ポイント高かった。
- 設問別結果のうち、漢字の読み書きについては、2問は正答率が全国よりやや上回り、1問は正答率が全国を上回った。一方、正答率が全国をやや下回った問題が1問見られた。

*全国平均正答率を100とした時の恵庭市平均正答率（分野別レーダーチャート）

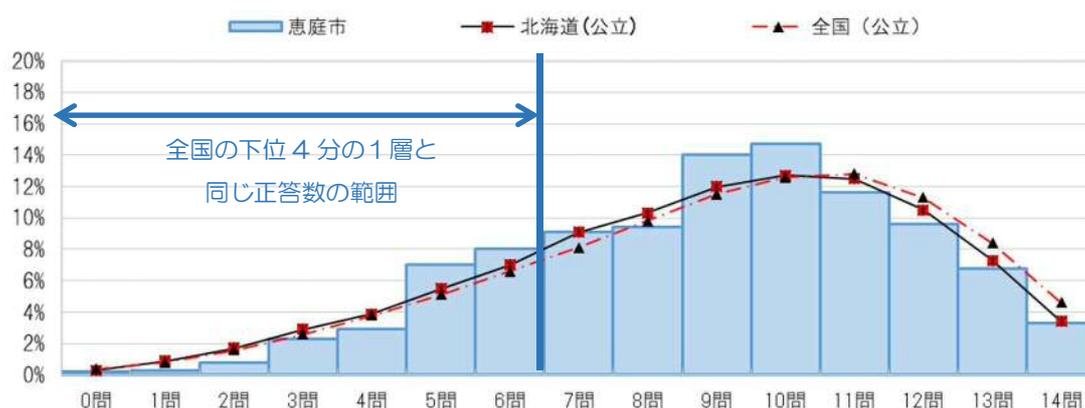


*小学校国語 分野別（領域・問題形式別）平均正答率の状況

		領域別正答率				問題形式別正答率		
		話すこと 聞くこと	書くこと	読むこと	言葉の特徴や 使い方に関する 事項	選択式問題	短文式問題	記述式問題
R3	恵庭市	○	○	・	○	○	○	・
	国と比較	≒	≒	◆	≒	≒	≒	≒
	全国(公立)	77.8%	60.7%	47.2%	68.3%	71.7%	70.6%	40.2%
	道と比較	◇	≒	≒	≒	≒	≒	≒
	全道(公立)	75.4%	60.4%	45.2%	67.1%	69.8%	70.6%	38.3%
H31 (前回) ※参考	前回実施	話すこと 聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	選択式問題	短文式問題	記述式問題
	国と比較	◇	≒	≒	◇	≒	△	≒
	道と比較	◇	≒	≒	◇	≒	△	◇

記号の意味	恵庭市の正答率が…	◎80%以上	○60%~79%	●50%~59%	・49%以下
	比較先よりも平均正答率が…	△上回る	◇やや上回る	≒ほぼ同程度	◆やや下回る

* 正答数の分布状況（横軸：正答数、縦軸：児童全体に占める割合）



* 全国の下位4分の1層と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合

		割合 (低い程良好)	全国との差 (低い程優位)
R3	恵庭市	21.5%	0.6
	全国	20.9%	
	全道	22.2%	1.3

※割合は正答数ごとにまとまっており、通常、丁度4分の1で区切ることができないので、「全国の下位25%に最も近い正答数の範囲」に含まれる児童の割合を示している。

* 恵庭市における設問別結果の概要

全14問中		(領域別内訳)		(形式別内訳)	
全国の正答率を3ポイント以上上回った設問	なし				
全国の正答率を3ポイント以上下回った設問	3問	話すこと・聞くこと	0 / 3問	選択式問題	1 / 8問
		書くこと	0 / 2問	短答式問題	1 / 3問
		読むこと	1 / 3問	記述式問題	1 / 3問
		言葉の特徴や使い方	2 / 6問		
無解答率が10%以上の設問	1問	話すこと・聞くこと	0 / 3問	選択式問題	0 / 8問
		書くこと	0 / 2問	短答式問題	1 / 3問
		読むこと	0 / 3問	記述式問題	0 / 3問
		言葉の特徴や使い方	1 / 6問		

【無解答率とは】

児童生徒が問題に取り組むのを断念し、何も解答しなかった割合です。その問題がねらいとしている内容を考えたり、書いたりすること自体を「難しい」「手に負えない」と感じていることが表れています。したがって、無解答率の高い問題では、解き方や考え方の習熟に課題があり、指導にいつもの丁寧さや工夫が求められるといえます。

* 主な設問別結果一覧

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	分野(学習指導要領上の「領域」等)	形式	恵庭市正答率	全国(公立)		全道(公立)	
						正答率	比較	正答率	比較
★恵庭市の正答率が全国の正答率を3ポイント以上下回った設問									
2四	面ファスナーに関する【資料】を読み、面ファスナーが、国際宇宙ステーションの中でどのように使われているのかをまとめて書く	目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する	読むこと	記述	■	29.7%	◆	27.4%	≒
					無解答率とその比較		4.7%	5.5%	-0.8
3三(1)ウ	丸山さんの【文章の下書き】の中の一部ウを漢字を使って書き直す(つみ重ね)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う	言葉の特徴や使い方に関する事項	短答	■	54.4%	▼	55.3%	▼
					無解答率とその比較		13.4%	14.4%	-1.0
3三(2)イ	丸山さんの【文章の下書き】の中の一部イで、〽〽〽部「残されています」の主語として適切なものを選択する	文の中における主語と述語との関係を捉える	言葉の特徴や使い方に関する事項	選択	○	67.0%	◆	63.9%	≒
					無解答率とその比較		1.6%	3.8%	-2.2

記号の意味	恵庭市の正答率が…	◎80%以上	○60%~79%	●50%~59%	・49%以下
	比較先よりも平均正答率が…	△上回る	◇やや上回る	≒ほぼ同程度	◆やや下回る ▼下回る

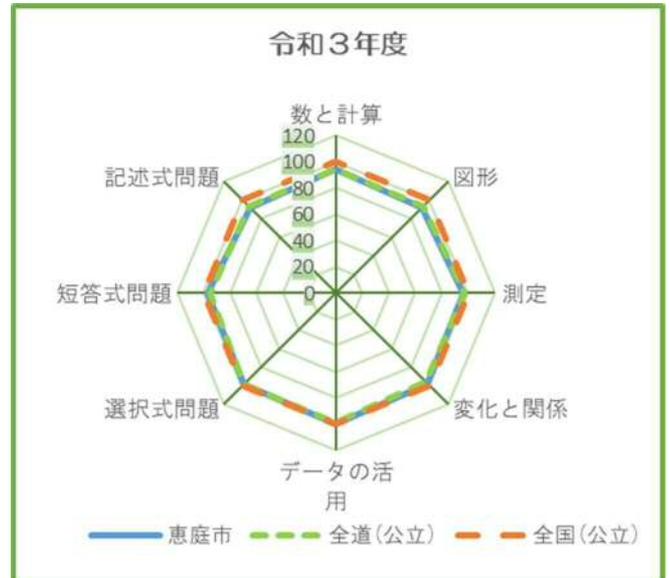


② 小学校 算数

解答時間45分・設問数16問

*全国平均正答率を100とした時の恵庭市平均正答率（分野別レーダーチャート）

- 各領域等の平均正答率は、「変化と関係」「データの活用」は全国平均正答率とほぼ同程度で、その他の分野についてはやや下回った。また全ての分野において、全道の平均正答率とほぼ同程度であった。
- 正答数が全国下位4分の1層の児童の割合は、全国より2.3ポイント高く、全道より1.5ポイント低い。これは、前回調査と比べて改善傾向にある。
- 正答率が全国より3ポイント以上下回った問題が7問あり、うち3問は「記述式問題」であった。また、無解答率が10パーセントを上回った設問も「記述式問題」であり、理由や方法を説明することに課題があると考えられる。

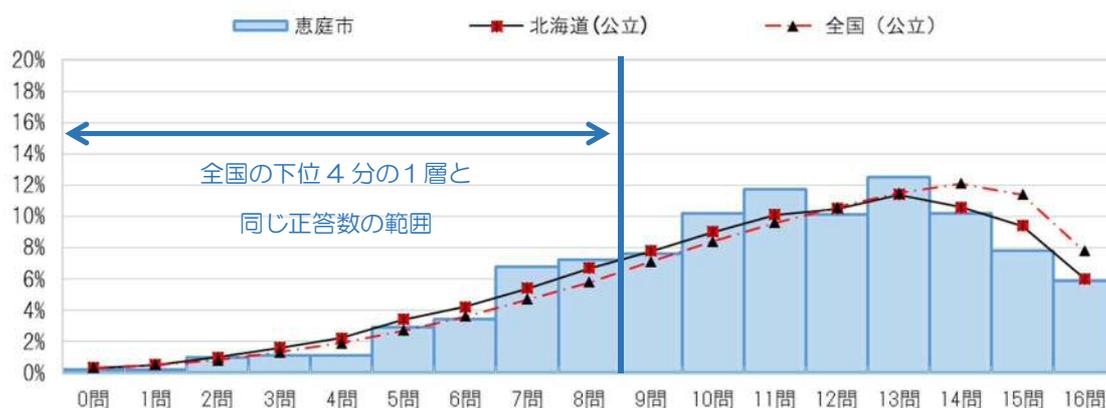


*小学校算数 分野別（領域・問題形式別）平均正答率の状況

		領域別正答率					問題形式別正答率		
		数と計算	図形	測定	変化と関係	データの活用	選択式問題	短答式問題	記述式問題
R3	恵庭市	●	●	○	○	○	○	○	・
	国と比較	◆	◆	◆	≒	≒	≒	◆	◆
	全国(公立)	63.1%	57.9%	74.8%	75.9%	76.0%	76.0%	75.8%	53.0%
	道と比較	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒
	全道(公立)	59.4%	54.0%	72.4%	72.5%	75.0%	74.6%	72.3%	49.5%
H31 (前回) ※参考	前回実施	数と計算	図形	量と測定	数量関係		選択式問題	短答式問題	記述式問題
	国と比較	◆	≒	◆	◆		◆	◆	◆
	道と比較	≒	≒	≒	≒		≒	≒	≒

記号の意味	恵庭市の正答率が…	◎80%以上	○60%~79%	●50%~59%	・49%以下
	比較先よりも平均正答率が…	△上回る	◇やや上回る	≒ほぼ同程度	◆やや下回る

* 正答数の分布状況（横軸：正答数、縦軸：児童全体に占める割合）



* 全国の下位4分の1層と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合

		割合 (低い程良好)	全国との差 (低い程優位)
R3	恵庭市	23.9%	2.3
	全国	21.6%	
	全道	25.3%	3.7

※割合は正答数ごとにまとまっており、通常、丁度4分の1で区切ることができないので、「全国の下位25%に最も近い正答数の範囲」に含まれる児童の割合を示している。

* 恵庭市における設問別結果の概要

全16問中		(領域別内訳)		(形式別内訳)	
全国の正答率を3ポイント以上上回った設問	なし				
全国の正答率を3ポイント以上下回った設問	7問	数と計算	3 / 4問	選択式問題	2 / 6問
		図形	3 / 3問	短答式問題	2 / 6問
		測定	2 / 3問	記述式問題	3 / 4問
		変化と関係	1 / 3問		
		データの活用	0 / 5問	※領域の重複する設問がある。	
無解答率が10%以上の設問	1問	数と計算	1 / 4問	選択式問題	0 / 6問
		図形	0 / 3問	短答式問題	0 / 6問
		測定	0 / 3問	記述式問題	1 / 4問
		変化と関係	0 / 3問		
		データの活用	0 / 5問	※領域の重複する設問がある。	

* 主な設問別結果一覧

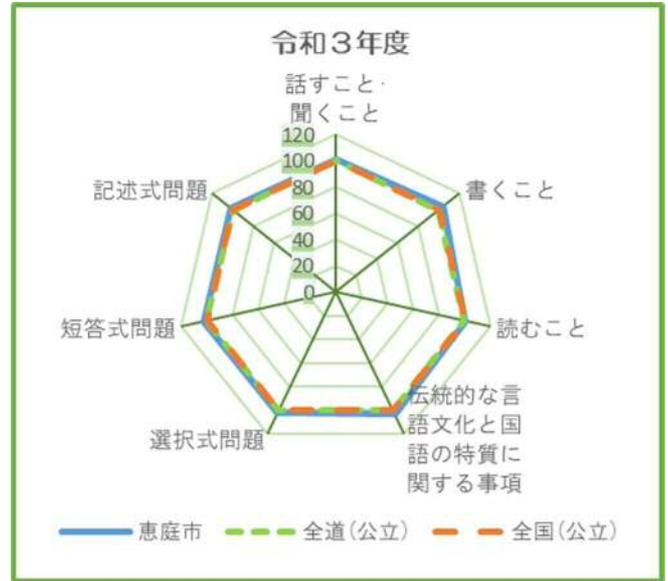
設問番号	設問の概要	出題の趣旨	分野(学習指導要領上の「領域」等)	形式	恵庭市正答率	全国(公立)		全道(公立)	
						正答率	比較	正答率	比較
★恵庭市の正答率が全国の正答率を3ポイント以上下回った設問									
1(1)	二つのコースの道のりの差の求め方と答えを書く	二つの道のりの差を求めるために必要な数値を選び、その求め方と答えを記述できる	数と計算、測定	記述	●	62.5%	◆	57.8%	≡
1(3)	㊦と㊧の二つの速さを求める式の意味について、正しいものを選ぶ	速さを求める除法の式と商の意味を理解している	変化と関係	選択	●	55.8%	◆	51.1%	≡
2(1)	直角三角形の面積を求める式と答えを書く	三角形の面積の求め方について理解している	図形	短答	▪	55.1%	▼	46.8%	≡
2(2)	直角三角形を組み合わせた図形の面積について分かることを選ぶ	複数の図形を組み合わせた図形の面積について、量の保存性や量の加法性を基に捉え、比べることができる	図形、測定	選択	○	72.5%	◆	71.6%	◆
2(3)	二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形の面積の求め方と答えを書く	複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方と答えを記述できる	図形	記述	▪	46.0%	◆	43.6%	≡
4(2)	8人に4Lのジュースを等しく分けるときの一人分のジュースの量を求める式と答えを書く	商が1より小さくなる等分除(整数)÷(整数)の場面で、場面から数量の関係を捉えて除法の式に表し、計算をすることができる	数と計算	短答	●	55.5%	◆	51.9%	≡
4(3)	30mを1としたときに12mが0.4に当たるわけを書く	小数を用いた倍についての説明を解釈し、ほかの数値の場合に適用して、基準量を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を記述できる	数と計算	記述	▪	51.5%	▼	46.7%	≡

記号の意味	恵庭市の正答率が…	◎80%以上	○60%~79%	●50%~59%	・49%以下
	比較先よりも平均正答率が…	△上回る	◇やや上回る	≡ほぼ同程度	◆やや下回る



*全国平均正答率を100とした時の恵庭市平均正答率（分野別レーダーチャート）

- 各領域の平均正答率は、「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が全国をやや上回っている。また、「短答式問題」の正答率も全国よりやや上回った。
- 正答数が全国下位4分の1層の生徒の割合は、全国より4.4ポイント低い。
- ほとんどの設問において、全国と同程度かやや上回る結果だったが、全国平均をやや下回った設問では無回答率も高く、文章を読み取り、自分の考えを表現することについては課題がある。

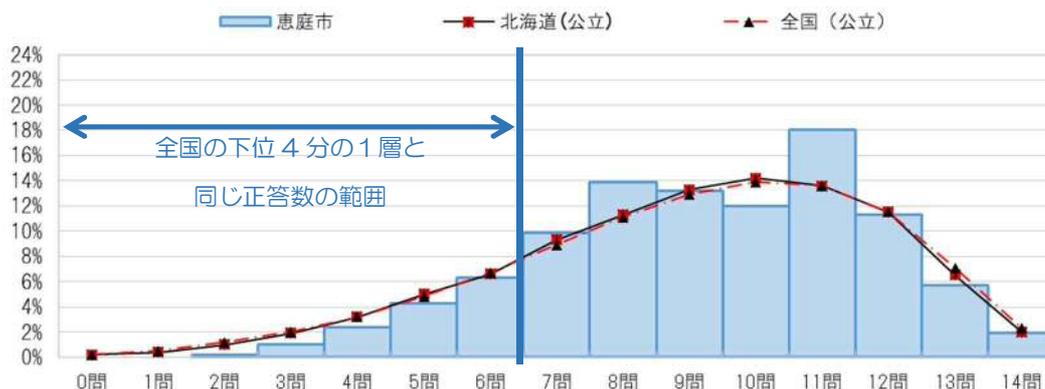


*中学校国語 分野別（領域・問題形式別）平均正答率の状況

		領域別正答率				問題形式別正答率		
		話すこと 聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化 と国語の特質に 関する事項	選択式問題	短答式問題	記述式問題
R3	恵庭市	◎	●	・	○	○	○	●
	国と比較	≒	◇	≒	◇	≒	◇	≒
	全国(公立)	79.8%	57.1%	48.5%	75.1%	63.9%	74.4%	56.0%
	道と比較	≒	◇	≒	◇	≒	≒	≒
	全道(公立)	79.7%	56.9%	48.2%	75.2%	63.9%	74.7%	55.3%
H31 (前回) ※参考	前回実施	話すこと 聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化 と国語の特質に 関する事項	選択式問題	短答式問題	記述式問題
	国と比較	≒	≒	≒	◇	≒	≒	◆
	道と比較	≒	◇	≒	≒	≒	≒	≒

記号の意味	恵庭市の正答率が… ◎80%以上 ○60%~79% ●50%~59% ・49%以下
	比較先よりも平均正答率が… △上回る ◇やや上回る ≒ほぼ同程度 ◆やや下回る ▼下回る

* 正答数の分布状況（横軸：正答数、縦軸：生徒全体に占める割合）



* 全国の下位 4 分の 1 層と同じ正答数の範囲に含まれる生徒の割合

		割合 (低い程良好)	全国との差 (低い程優位)
R3	恵庭市	14.2%	-4.4
	全国	18.6%	
	全道	18.3%	-0.3

※割合は正答数ごとにまとまっており、通常、丁度 4 分の 1 で区切ることができないので、「全国の下位 25% に最も近い正答数の範囲」に含まれる生徒の割合を示している。

* 恵庭市における設問別結果の概要

全 14 問中		(領域別内訳)		(形式別内訳)	
全国の正答率を 3ポイント以上上回った設問	4問	話すこと・聞くこと	0 / 3問	選択式問題	1 / 6問
		書くこと	1 / 3問	短答式問題	2 / 4問
		読むこと	1 / 4問	記述式問題	1 / 4問
		伝統的な言語文化...	2 / 4問		
全国の正答率を 3ポイント以上下回った設問	1問	話すこと・聞くこと	0 / 3問	選択式問題	0 / 6問
		書くこと	0 / 3問	短答式問題	0 / 4問
		読むこと	1 / 4問	記述式問題	1 / 4問
		伝統的な言語文化...	0 / 4問		
無解答率が 10%以上の設問	1問	話すこと・聞くこと	0 / 3問	選択式問題	0 / 6問
		書くこと	0 / 3問	短答式問題	0 / 4問
		読むこと	1 / 4問	記述式問題	1 / 4問
		伝統的な言語文化...	0 / 4問		

* 主な設問別結果一覧

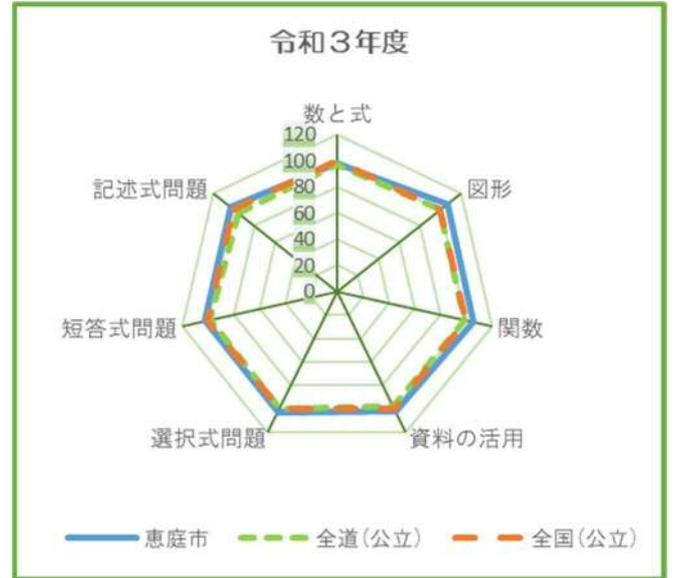
設問 番号	設問の概要	出題の趣旨	分野(学習指導要領 上の「領域」等)	形式	恵庭市 正答率	全国(公立)		全道(公立)	
						正答率	比較	正答率	比較
★恵庭市の正答率が全国の正答率を3ポイント以上上回った設問									
2二	意見文の下書きの構成の工夫について、自分の考えを書く	書いた文章を互いに読み合い、文章の構成の工夫を考える	書くこと	記述	○	74.5%	◇	73.7%	◇
					無解答率とその比較	6.8%	8.5%	-1.7	9.3%
3一	「呼吸をのみこんだ」の意味として適切なものを選択する	文脈の中における語句の意味を理解する	読むこと	選択	▪	43.7%	◇	43.2%	◇
					無解答率とその比較	0.2%	0.4%	-0.2	0.3%
4一②	漢字を読む(詳細)	文脈に即して漢字を正しく読む	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	短答	◎	88.8%	◇	90.1%	◇
					無解答率とその比較	0.0%	2.3%	-2.3	1.8%
4三	「行く」を適切な敬語に書き直し、その敬語の種類として適切なものを選択する	相手や場に応じて敬語を適切に使う	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	短答	▪	40.3%	◇	39.4%	◇
					無解答率とその比較	1.0%	1.7%	-0.7	1.7%
★恵庭市の正答率が全国の正答率を3ポイント以上下回った設問									
3四	「吾輩」が「黒」をどのように評価し、どのような接し方をしているかや、そのような接し方をどう思うかを書く	文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ	読むこと	記述	▪	20.5%	◆	18.4%	◆
					無解答率とその比較	22.8%	24.1%	-1.3	24.8%

記号の意味	恵庭市の正答率が… ◎80%以上 ○60%~79% ●50%~59% ・49%以下
	比較先よりも平均正答率が…△上回る ◇やや上回る ≡ほぼ同程度 ◆やや下回る ▼下回る



*全国平均正答率を100とした時の恵庭市平均正答率（分野別レーダーチャート）

- 各領域等の平均正答率は、「図形」「関数」で全国をやや上回っており、その他は全国とほぼ同程度である。
- 正答数が全国下位4分の1層の生徒の割合は、全国より0.6ポイント低い。
- 記述式問題では全国を上回る設問があるものの、5問中4問で無回答率が10%を上回っており、問題で示された事柄を数学的に理解し、説明することに課題がある。

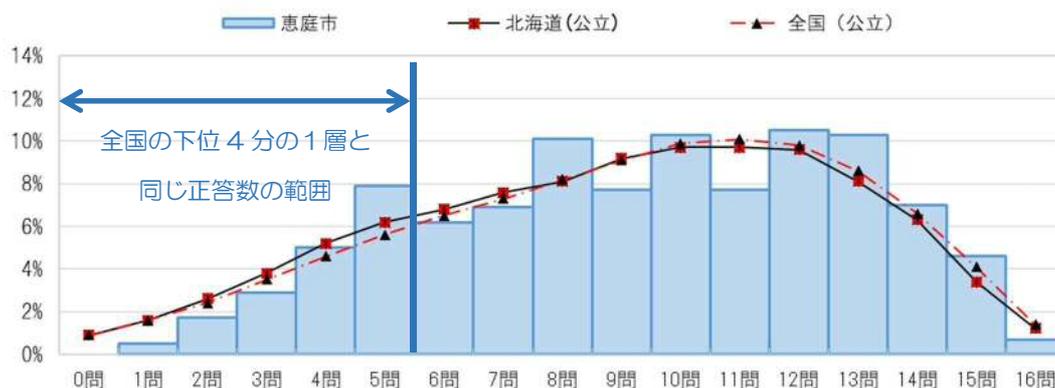


*中学校数学 分野別（領域・問題形式別）平均正答率の状況

		領域別正答率				問題形式別正答率		
		数と式	図形	関数	資料の活用	選択式問題	短答式問題	記述式問題
R3	恵庭市	○	●	●	●	●	○	・
	国と比較	≒	◇	◇	≒	≒	≒	≒
	全国(公立)	64.9%	51.4%	56.4%	53.8%	52.4%	70.5%	35.0%
	道と比較	≒	◇	◇	◇	≒	◇	◇
	全道(公立)	62.5%	51.3%	55.6%	52.3%	52.0%	69.2%	33.5%
H31 (前回) ※参考	前回実施	数と式	図形	関数	資料の活用	選択式問題	短答式問題	記述式問題
	国と比較	≒	≒	◆	≒	≒	≒	≒
	道と比較	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒

記号の意味	恵庭市の正答率が…	◎80%以上	○60%~79%	●50%~59%	・49%以下
	比較先よりも平均正答率が…	△上回る	◇やや上回る	≒ほぼ同程度	◆やや下回る

* 正答数の分布状況（横軸：正答数、縦軸：生徒全体に占める割合）



* 全国の下位4分の1層と同じ正答数の範囲に含まれる生徒の割合

		割合 (低い程良好)	全国との差 (低い程優位)
R3	恵庭市	18.0%	-0.6
	全国	18.6%	
	全道	20.3%	1.7

※割合は正答数ごとにまとまっており、通常、丁度4分の1で区切ることができないので、「全国の下位25%に最も近い正答数の範囲」に含まれる生徒の割合を示している。

* 恵庭市における設問別結果の概要

全16問中		(領域別内訳)		(形式別内訳)	
全国の正答率を 3ポイント以上上回った設問	5問	数と式	0 / 5問	選択式問題	0 / 2問
		図形	2 / 4問	短答式問題	3 / 9問
		関数	2 / 3問	記述式問題	2 / 5問
		資料の活用	1 / 4問		
全国の正答率を 3ポイント以上下回った設問	4問	数と式	3 / 5問	選択式問題	0 / 2問
		図形	0 / 4問	短答式問題	2 / 9問
		関数	0 / 3問	記述式問題	2 / 5問
		資料の活用	1 / 4問		
無解答率が 10%以上の設問	6問	数と式	2 / 5問	選択式問題	0 / 2問
		図形	2 / 4問	短答式問題	2 / 9問
		関数	1 / 3問	記述式問題	4 / 5問
		資料の活用	1 / 4問		

* 主な設問別結果一覧

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	分野(学習指導要領上の「領域」等)	形式	恵庭市正答率	全国(公立)		全道(公立)	
						正答率	比較	正答率	比較
★恵庭市の正答率が全国の正答率を3ポイント以上上回った設問									
5	反復横とびの記録の中央値を求める	与えられたデータから中央値を求めることができる	資料の活用	短答	◎	84.5%	◇	84.6%	◇
						無解答率とその比較	0.3%	1.0%	-0.7
7(1)	与えられた表やグラフから、砂の重さが75gのときに、砂が落ちるまでの時間が36.0秒であったことを表す点を求める	与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる	関数	短答	◎	93.5%	◇	93.3%	◇
						無解答率とその比較	0.2%	2.0%	-1.8
7(2)	与えられた表やグラフを用いて、2分をはかるとするために必要な砂の重さを求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる	関数	記述	▪	27.7%	◇	27.3%	△
						無解答率とその比較	22.8%	24.7%	-1.9
9(1)	四角形ABCEが平行四辺形になることを、平行四辺形になるための条件を用いて説明する	平行四辺形になるための条件を用いて、四角形が平行四辺形になることの理由を説明することができる	図形	記述	▪	44.3%	△	42.7%	△
						無解答率とその比較	3.8%	3.6%	0.2
9(2)	錯角が等しくなることについて、根拠となる直線FEと直線BCの関係を、記号を用いて表す	錯角が等しくなるための、2直線の位置関係を理解している	図形	短答	○	64.3%	△	65.1%	◇
						無解答率とその比較	12.0%	14.2%	-2.2
★恵庭市の正答率が全国の正答率を3ポイント以上下回った設問									
1	$(5x+6y) - (3x-2y)$ を計算する	整式の加法と減法の計算ができる	数と式	短答	○	77.1%	◆	72.2%	≡
						無解答率とその比較	0.5%	0.8%	-0.3
2	数量の関係を一元一次方程式で表す	具体的な場面で、一元一次方程式をつくることのできる	数と式	短答	○	71.3%	▼	68.6%	◆
						無解答率とその比較	6.0%	7.6%	-1.6
6(2)	四角で4つの数を囲むとき、4つの数の和はいつでも4の倍数になることの説明を完成する	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる	数と式	記述	●	61.8%	◆	58.4%	≡
						無解答率とその比較	15.6%	15.4%	0.2
8(3)	「日照時間が6時間以上の日は、6時間未満の日より気温差が大きい傾向にある」と主張できる理由を、グラフの特徴を基に説明する	データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる	資料の活用	記述	▪	11.1%	◆	8.9%	≡
						無解答率とその比較	29.7%	32.2%	-2.5

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	分野(学習指導要領上の「領域」等)	形式	恵庭市正答率	全国(公立)		全道(公立)	
						正答率	比較	正答率	比較
★上記以外で、恵庭市の無解答率が10%以上になった設問									
6(3)	四角で4つの数を囲むとき、四角で囲んだ4つの数の和がどの位置にある2つの数の和の2倍であるかを説明する	数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明することができる	数と式	記述	■	30.3%	≡	30.1%	◇
						無解答率とその比較	28.5%	29.9%	-1.4
9(3)	∠ARGや∠ASGの大きさについていつでもいえることを書く	ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見だし、それを数学的に表現することができる	図形	短答	■	28.8%	≡	28.6%	◇
						無解答率とその比較	27.4%	28.7%	-1.3

記号の意味	恵庭市の正答率が…	◎80%以上	○60%~79%	●50%~59%	・49%以下
	比較先よりも平均正答率が…	△上回る	◇やや上回る	≡ほぼ同程度	◆やや下回る ▼下回る



3 「生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査」調査結果

児童生徒質問紙
学校質問紙

回答時間 20～40 分・質問数 69 問
回答時間設定なし・質問数 102 問

(1) 小・中学校児童生徒質問紙調査結果の概要

ア. 生活習慣

質問 番号	質問事項	回答率に 含まれる 回答の範囲	学年	恵庭市 回答率	全国(公立)		全道(公立)	
					回答率	比較	回答率	比較
ア. 生活習慣に関する質問								
1	朝食を毎日食べていますか	「している」「どちらかといえば、している」	小6	94.5%	94.9%	-0.4	93.5%	1.0
			中3	93.3%	92.8%	0.5	91.7%	1.6
2	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	「している」「どちらかといえば、している」	小6	79.0%	81.2%	-2.2	81.4%	-2.4
			中3	75.5%	79.8%	-4.3	79.2%	-3.7
3	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	「している」「どちらかといえば、している」	小6	89.5%	90.4%	-0.9	89.9%	-0.4
			中3	91.4%	92.7%	-1.3	92.4%	-1.0
4	携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか	「きちんと守っている」「だいたい守っている」	小6	68.6%	70.1%	-1.5	70.7%	-2.1
			中3	67.1%	67.9%	-0.8	68.1%	-1.0
5	普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか	2時間以上している	小6	51.5%	49.4%	2.1	56.0%	-4.5
			中3	58.5%	57.0%	1.5	64.1%	-5.6

【早寝早起き朝ごはん】朝食の習慣について、「朝食を毎日食べている」と答えた割合は、小中学校ともに9割を超えており、小学校で全国より0.4ポイント低い点を除き、全道・全国を上回っている。就寝では、「毎日同じくらいの時刻に寝ている」と答えた割合は、小・中学校ともに全道・全国より2ポイント以上低く、起床でも、「毎日同じくらいの時刻に起きている」と答えた割合は同様に下回っている。

起床時間・朝食については概ね9割以上の児童生徒が肯定的に回答しているが、就寝時間の肯定的回答は8割未満であり、就寝時間が起床時間よりやや不規則である傾向は例年通りである。

【ゲーム・スマホ】家庭での約束事について、「守っている」と答えた割合は、小・中学校ともに7割弱で、全道・全国より若干低い。「1日当たり2時間以上ゲームをしている」と答えた割合が、小・中学校ともに5割を超え、全国より若干高く、全道よりは低い。また、ゲームをしている時間に係る設問は、平成29年度調査以来となるが、当時と比較して2時間以上ゲームをしていると答えた割合が、大幅に増加している。生活リズムを崩さないように、北海道教育委員会が示している1日2時間以内を目安とし、家庭での関わりや学校での指導が引き続き重要となる。

【参考】道教委リーフレット「時間の目安を決めて子どもの生活リズムを整える！」

https://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/gky/gks/jikan_meyasu_h29/3.html

※記載したウェブサイトのアドレスは、令和3年12月現在のものです。

イ. 自分やまわりへの意識

質問番号	質問事項	回答率に含まれる回答の範囲	学年	恵庭市回答率	全国(公立)		全道(公立)	
					回答率	比較	回答率	比較
イ. 自分やまわりへの意識に関する質問								
6	自分には、よいところがあると思いますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	71.6%	76.9%	-5.3	72.6%	-1.0
			中3	74.2%	76.2%	-2.0	74.5%	-0.3
7	将来の夢や目標を持っていますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	79.5%	80.3%	-0.8	79.0%	0.5
			中3	70.3%	68.6%	1.7	67.3%	3.0
8	自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	82.9%	84.3%	-1.4	83.9%	-1.0
			中3	81.1%	84.2%	-3.1	84.0%	-2.9
11	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	97.7%	96.8%	0.9	97.1%	0.6
			中3	96.6%	95.9%	0.7	95.9%	0.7
12	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	95.7%	95.5%	0.2	95.3%	0.4
			中3	94.8%	95.0%	-0.2	94.4%	0.4
16	友達と協力するのは楽しいと思いますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	94.8%	93.9%	0.9	93.8%	1.0
			中3	90.7%	93.3%	-2.6	92.5%	-1.8
25	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	55.8%	52.4%	3.4	51.0%	4.8
			中3	47.5%	43.8%	3.7	39.4%	8.1

【自尊感情】「自分にはよいところがある」と答えた割合は、前回調査と比較して小学校で8.3ポイント低く、中学校で2.3ポイント低い。全国との比較では、特に小学校で5ポイント以上低くなっており、自分の良いところを認める意識がやや低い傾向にある。

【挑戦心】「将来の夢や目標を持っている」と答えた割合は、小学校で全国より0.8ポイント低いが、それ以外では全道・全国より高い。「決めたことはやり遂げる」と答えた割合は、小・中学校ともに全道・全国を下回っているが、8割以上の児童生徒が肯定的に回答している。将来の夢や目標を持つことは、今後の学校生活において生活面、学習面で非常に重要であるため、学習指導要領に基づく「キャリア・パスポート」も活用しながら、夢や目標の設定、そこに向かって努力することの大切さを指導していく必要がある。

※「キャリア・パスポート」とは・・・児童生徒が、小学校から高等学校までのキャリア教育に関わる諸活動について、特別活動の学級活動及びホームルーム活動を中心として、各教科等とつなげながら自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自身の変容や成長を自己評価できるよう工夫されたポートフォリオ（書類ケースという意味）。

【親切心・友人関係】「いじめはいけない」と答えた割合は、小・中学校ともに全道・全国を上回っている。また、「人の役に立つ人間になりたい」と答えた割合も多数を占めており、恵庭市の児童生徒は人に対する優しさの意識が非常に高いことが分かる。「友達と協力するのは楽しい」と答えた割合は、小・中学校ともに9割以上であるが、中学校では全道・全国を下回っており、小学校と比較すると、友人との関わりに肯定的ではない割合が若干多い。

【ふるさと教育】「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」と答えた割合は、小・中学校ともに全道・全国より高い。恵庭市では、小学校3・4年生で恵庭の歴史や産業、くらし等を学ぶための社会科副読本を独自に編纂し、活用している他、各校で地域資源を活用した「ふるさと教育」を推進しているため、今後も活動を継続していくことが重要である。

ウ. 家庭学習

質問 番号	質問事項	回答率に 含まれる 回答の範囲	学年	恵庭市 回答率	全国(公立)		全道(公立)	
					回答率	比較	回答率	比較
ウ. 家庭学習に関する質問								
17	家で自分で計画を立てて勉強をしていますか(学校の授業の予習や復習を含む)	「している」「どちらかといえば、している」	小6	80.0%	74.0%	6.0	78.9%	1.1
			中3	65.8%	63.5%	2.3	65.2%	0.6
18	学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)	1時間以上している	小6	60.9%	62.5%	-1.6	58.3%	2.6
			中3	76.3%	75.9%	0.4	71.9%	4.4
19	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)	1時間以上している	小6	64.7%	61.0%	3.7	61.4%	3.3
			中3	80.1%	77.6%	2.5	76.3%	3.8
21	学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)	1日当たり30分以上している	小6	37.1%	37.4%	-0.3	35.2%	1.9
			中3	25.7%	28.9%	-3.2	28.9%	-3.2
		全くしない	小6	23.7%	24.0%	-0.3	27.6%	-3.9
			中3	33.9%	34.8%	-0.9	33.8%	0.1
23	新聞を読んでいますか	週1回以上読んでいる	小6	15.3%	14.8%	0.5	15.0%	0.3
			中3	11.4%	10.4%	1.0	11.8%	-0.4
		ほとんど、または、全く読まない	小6	72.4%	70.4%	2.0	69.4%	3.0
			中3	74.6%	76.7%	-2.1	74.9%	-0.3

【家庭学習の内容】「自分で計画を立てて勉強している」と答えた割合は、全国と比較すると小学校で6ポイント高く、中学校でも2.3ポイント高い。家庭学習において、計画的な予習や復習を意識している傾向にあるが、全道・全国と同様に小学校と中学校の差が開いている。

【家庭学習の時間】市教委では、家庭学習の時間の目安を小1から数えた学年×10分+10分としており、小学校6年生では70分、中学校3年生では100分になる。「平日に1時間以上学校以外で勉強している」と答えた割合は、小学校で全国より1.6ポイント低いことを除き、全道・全国とほぼ同じか上回っている。また、「休日に1時間以上勉強している」と答えた割合は、小・中学校ともに全道・全国より2ポイント以上高い。このことから、全道や全国と比較しても、学校以外での勉強にも取り組んでいる様子が伺える。

【読書習慣】「(授業時間以外に)平日30分以上読書する」と答えた割合は、小学校で全国より0.3ポイント低く、全道より1.9ポイント高い。中学校では、全道・全国より3.2ポイント低く、「読書を全くしない」と答えた割合が3割を超えるなど、特に中学校では読書をする時間が少ない傾向にある。市内小・中学校では、市立図書館との連携による学校図書館の蔵書の充実を図り、保護者やボランティアの協力による読み聞かせや、朝読書等の活動を実施しているが、中学生になると高校進学のため、勉強にかける時間も増えることから、読書の時間が減ってしまうと推測される。恵庭市は「恵庭市人とまちを育む読書条例」を平成25年度から施行しており、「読書のまちづくり」を掲げ、様々な施策を実施していることから、引き続き読書習慣の定着につなげていく必要がある。

エ. 学校での学習

質問 番号	質問事項	回答率に 含まれる 回答の範囲	学年	恵庭市 回答率	全国(公立)		全道(公立)	
					回答率	比較	回答率	比較
エ. 学校での学習に関する質問								
26	5年生まで／1、2年生のときに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか	週1回以上使用している	小6	41.3%	40.1%	1.2	39.3%	2.0
			中3	35.9%	33.4%	2.5	26.6%	9.3
28	学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	94.4%	94.5%	-0.1	95.6%	-1.2
			中3	93.9%	93.2%	0.7	93.4%	0.5
31	5年生まで／1、2年生のときに受けた授業で、学級の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考え(自分と同じところや違うところ)を受け止めて自分の考えをしっかりと伝えていましたか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	85.6%	82.6%	3.0	82.9%	2.7
			中3	83.7%	83.7%	0.0	83.5%	0.2
33	5年生まで／1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	79.8%	78.2%	1.6	78.7%	1.1
			中3	78.7%	81.0%	-2.3	79.9%	-1.2
38	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	81.1%	78.3%	2.8	77.4%	3.7
			中3	69.6%	74.6%	-5.0	73.3%	-3.7
42	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	86.7%	81.1%	5.6	80.9%	5.8
			中3	91.6%	86.2%	5.4	86.9%	4.7

【ICT活用】「これまでの授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用したか」に対して「週1回以上」と答えた割合は、小・中学校ともに全道・全国を上回っている、これは市内全校への電子黒板の整備や、パソコン教室の活用等が図られていたことも影響していると考えられる。また、「ICT機器が勉強の役に立つ」と答えた割合は、小学校で94.4%、中学校で93.9%であり、授業におけるICT機器の活用に期待している様子が分かる。現在、「GIGAスクール構想」に基づく1人1台端末の整備が進んでおり、今後はさらにICT機器の活用場面が増加するため、児童生徒が意欲的に取り組めるように、活用方法を工夫する必要がある。

【授業への取組】「相手の話を最後まで聞き、自分の考えを伝えていた」と答えた割合は、小学校で全国より3ポイント高く、全道より2.7ポイント高かった。中学校では全道・全国とほぼ同程度となっている。また「自分で考え、自分から取り組んでいた」と答えた割合は、小学校で全道・全国をやや上回っているが、中学校ではやや下回っている。小学校の方が、比較的授業に取り組む姿勢として、意欲的であることが分かる。

【復習】「分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげている」と答えた割合は、小学校で全国より2.8ポイント高く、全道より3.7ポイント高かった。中学校では全国より5ポイント低く、全道より3.7ポイント低い。小学校が中学校より10ポイント以上高い割合となっているが、中学校では授業の中で復習する機会が少ないため、自主的な復習が必要である。

【道徳】「道徳の授業で自分の考えを深めたり、周りとは話し合ったりする活動に取り組んでいる」と答えた割合は、小・中学校ともに全国より5ポイント以上高い。このことから、学校でも意欲的な取組が実施されており、児童生徒にも意識されていると考えられる。なお、道徳は小学校で平成30年度から、中学校で平成31年度から「特別な教科」として教科化されている。

オ. 教科（国語・算数/数学）について

質問 番号	質問事項	回答率に 含まれる 回答の範囲	学年	恵庭市 回答率	全国(公立)		全道(公立)	
					回答率	比較	回答率	比較
エ. 教科（国語・算数/数学）に関する質問								
43	国語の勉強は好きですか	「当てはまる」「どちらか といえば、当てはまる」	小6	54.5%	58.4%	-3.9	58.7%	-4.2
			中3	63.6%	60.8%	2.8	61.4%	2.2
45	国語の授業の内容がよく分かりますか	「当てはまる」「どちらか といえば、当てはまる」	小6	83.0%	84.2%	-1.2	84.9%	-1.9
			中3	78.4%	80.1%	-1.7	81.0%	-2.6
46	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に 立つと思いますか	「当てはまる」「どちらか といえば、当てはまる」	小6	93.1%	91.8%	1.3	92.0%	1.1
			中3	88.9%	88.7%	0.2	88.0%	0.9
50	国語の授業では、目的に応じて文章を読み、感想や考えを もったり、自分の考えを広げたりしていますか	「当てはまる」「どちらか といえば、当てはまる」	小6	72.7%	74.3%	-1.6	74.3%	-1.6
			中3	77.9%	77.0%	0.9	76.4%	1.5
52	算数/数学の勉強は好きですか	「当てはまる」「どちらか といえば、当てはまる」	小6	66.9%	67.8%	-0.9	65.0%	1.9
			中3	50.9%	59.1%	-8.2	55.4%	-4.5
54	算数/数学の授業の内容がよく分かりますか	「当てはまる」「どちらか といえば、当てはまる」	小6	86.0%	84.6%	1.4	82.8%	3.2
			中3	66.0%	74.6%	-8.6	72.4%	-6.4
55	算数/数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たとき に役に立つと思いますか	「当てはまる」「どちらか といえば、当てはまる」	小6	94.3%	92.6%	1.7	92.1%	2.2
			中3	72.2%	74.6%	-2.4	72.5%	-0.3
58	算数/数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理 解するようにしていますか	「当てはまる」「どちらか といえば、当てはまる」	小6	88.8%	89.0%	-0.2	89.6%	-0.8
			中3	79.1%	83.5%	-4.4	83.7%	-4.6

【国語】「国語の勉強が好き」と答えた割合は、小学校で全道・全国より4ポイント程度低い。中学校では全道・全国より2ポイント以上高い。また、「国語の授業の内容がよく分かる」と答えた割合は、小・中学校ともに全道・全国をやや下回っており、どちらかといえば小学校のほうが、国語に対して苦手意識を感じている。「国語が将来社会に出たときに役に立つ」と答えた割合は、小・中学校ともに9割前後となっており、国語の重要性について意識している割合が多い。

「授業では、目的に応じて文章を読み、感想や考えをもったり、自分の考えを広げたりしている」と答えた割合は、全道・全国と比べ、小学校がやや下回り、中学校でやや上回っている。国語の授業の中で学ぶことは、他の教科でも活かせることがあるため、こうした考えを深める思考が重要になってくる。

【算数/数学】「算数/数学の勉強が好き」と答えた割合は全国と比べ、小学校で0.9ポイント、中学校で8.2ポイント低い。また「算数/数学の授業の内容がよく分かる」と答えた割合は全国と比べ、小学校で1.4ポイント高く、中学校で8.6ポイント低い。国語と比べると、「好き」と答えた割合が小学校と中学校で逆転しており、「内容がよく分かる」と答えた割合については、小学校と中学校で20ポイントの差がつくなど。特に中学校では苦手意識が強い。なお、「算数/数学が将来社会に出たときに役に立つ」と答えた割合は、小学校で9割を超えているのに対し、中学校では7割程度となっているが、これは全道・全国でも同様の傾向にある。

「授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている」と答えた割合は、中学校で全国に比べて4.4ポイント低い。今回の中学校の結果で、記述式に課題があったが、公式やきまりについて理解を深めることが、記述問題や応用問題には重要である。

(2) 学校質問紙調査の主な回答結果データ

質問 番号	質問事項	回答率に 含まれる 回答の範囲	学校	恵庭市 回答率	全国(公立)		全道(公立)	
					回答率	比較	回答率	比較
A. 児童・生徒への指導に関する質問								
10	調査対象学年の児童／生徒に対して、前年度までに、学習規律(他の人が話をしている時はしっかりと聞く、授業開始のチャイムを守るなど)を維持しましたか	「よく行った」	小	75.0%	62.3%	12.7	68.3%	6.7
			中	100.0%	75.8%	24.2	78.3%	21.7
11	調査対象学年の児童／生徒に対して、前年度までに、学校生活の中で、生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する(褒めるなど)取組を行いましたか	「よく行った」	小	75.0%	64.1%	10.9	72.9%	2.1
			中	60.0%	63.8%	-3.8	69.7%	-9.7
B. 学校運営に関する質問								
16	学校として、業務改善に取り組んでいますか	「よく取り組んでいる」	小	75.0%	42.3%	32.7	60.1%	14.9
			中	40.0%	40.0%	0.0	60.1%	-20.1
19	児童／生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか	「よくしている」	小	62.5%	31.1%	31.4	51.1%	11.4
			中	80.0%	29.8%	50.2	50.3%	29.7
C. 授業改善に関する質問								
29	調査対象学年の児童／生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか	「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」	小	87.5%	85.3%	2.2	88.4%	-0.9
			中	100.0%	86.0%	14.0	89.4%	10.6
34	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	小	100.0%	87.7%	12.3	90.7%	9.3
			中	100.0%	84.5%	15.5	90.7%	9.3
D. 教科の指導方法に関する質問								
44	調査対象学年の児童／生徒に対して、特別の教科 道徳において、児童自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしていますか	「よくしている」	小	75.0%	40.8%	34.2	57.7%	17.3
			中	100.0%	49.2%	50.8	60.7%	39.3
49	調査対象学年の児童／生徒に対する国語の指導として、前年度までに、補充的な学習の指導を行いましたか	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	小	100.0%	85.4%	14.6	89.0%	11.0
			中	60.0%	86.5%	-26.5	91.7%	-31.7
50	調査対象学年の児童／生徒に対する国語の指導として、前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	小	75.0%	56.6%	18.4	67.0%	8.0
			中	60.0%	72.9%	-12.9	79.3%	-19.3
55	調査対象学年の児童／生徒に対する算数／数学の指導として、前年度までに、補充的な学習の指導を行いましたか	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	小	100.0%	94.6%	5.4	96.7%	3.3
			中	100.0%	92.7%	7.3	95.4%	4.6
56	調査対象学年の児童／生徒に対する算数／数学の指導として、前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	小	87.5%	67.1%	20.4	74.1%	13.4
			中	80.0%	75.8%	4.2	79.7%	0.3
E. ICTを活用した学習に関する質問								
63	コンピュータなどのICT機器やネットワークの点から、授業(授業準備も含む)を行うための準備ができていますか	「よくできている」「できている」	小	75.0%	90.4%	-15.4	92.1%	-17.1
			中	100.0%	88.6%	11.4	87.2%	12.8
66	前年度に、教員が大型提示装置(プロジェクター、電子黒板など)などのICT機器を活用した授業を1クラス当たり、どの程度行いましたか	「ほぼ毎日」「週1回以上」	小	100.0%	86.6%	13.4	89.0%	11.0
			中	100.0%	87.8%	12.2	82.0%	18.0
68	教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会がありますか	「ある」「どちらかといえば、ある」	小	75.0%	84.8%	-9.8	89.2%	-14.2
			中	80.0%	78.4%	1.6	83.4%	-3.4

質問 番号	質問事項	回答率に 含まれる 回答の範囲	学校	恵庭市 回答率	全国(公立)		全道(公立)	
					回答率	比較	回答率	比較
F. 小学校と中学校の連携に関する質問								
77	前年度までに、近隣等の中学校／小学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行いましたか	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	小	75.0%	59.1%	15.9	63.0%	12.0
			中	80.0%	65.0%	15.0	70.0%	10.0
78	前年度までに、近隣等の中学校／小学校と、授業研究を行うなど、合同して研修を行いましたか	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	小	75.0%	57.4%	17.6	56.2%	18.8
			中	80.0%	65.1%	14.9	67.7%	12.3
G. 家庭や地域との連携に関する質問								
80	職場見学や職場体験活動を行っていますか	「行っている」	小	62.5%	44.2%	18.3	62.9%	-0.4
			中	100.0%	89.6%	10.4	95.6%	4.4
81	教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っていますか	「よくしている」「どちらかといえば、している」	小	100.0%	85.7%	14.3	95.0%	5.0
			中	100.0%	87.2%	12.8	94.3%	5.7
83	地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、(82)の質問にあるような、保護者や地域の人との協働による活動を行いましたか	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	小	87.5%	73.3%	14.2	68.0%	19.5
			中	80.0%	63.3%	16.7	64.2%	15.8
H. 家庭学習に関する質問								
85	調査対象学年の児童／生徒に対して、前年度までに、家庭学習の課題の課し方について、校内の教職員で共通理解を図りましたか(教科共通)	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	小	100.0%	90.6%	9.4	95.4%	4.6
			中	100.0%	85.5%	14.5	87.0%	13.0
86	調査対象学年の児童／生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、児童に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えるようにしましたか(教科共通)	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	小	100.0%	95.5%	4.5	98.1%	1.9
			中	100.0%	91.9%	8.1	94.4%	5.6
87	調査対象学年の児童／生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、児童が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や児童の学習改善に生かしましたか(教科共通)	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	小	100.0%	89.4%	10.6	93.3%	6.7
			中	100.0%	85.4%	14.6	89.6%	10.4



4 総評

① テスト結果について

全国学力・学習状況調査の結果から、恵庭市の児童（小学校6年生）の平均正答率は、全国平均に比べて、国語が「ほぼ同程度」、算数が「やや下回る」結果となりました。生徒（中学校3年生）の平均正答率は、全国平均に比べて、国語が「ほぼ同程度」、数学が「ほぼ同程度」という結果となりました。

また、全国の下位約25%の児童生徒と同じ正答率の範囲に含まれる恵庭市の児童生徒の割合は、前回（平成31年度）と比べて、次のようになりました。コロナ禍にあっても、学力に課題のある層の割合が着実に減少していることが分かります。

全国の下位 25%の範囲 に含まれる恵 庭市の割合	小学校6年生		中学校3年生		
	国語	算数	国語	数学	英語
(前回) H31 (R1)	21.5%	23.7%	20.7%	19.4%	17.7%
R3	国語	算数	国語	数学	
	21.5%	23.9%	14.2%	18.0%	

※割合が小さくなることで、学力の底上げの目安になります。

② 質問紙の結果について

今回の児童生徒質問紙において、特徴的な設問の一つが、「ゲーム・スマホ」に関することで、特に「1日あたりの利用時間」は過去の結果と比べて長時間利用する割合が大幅に増加していますが、1日の時間は限られているので、時間の使い方には注意する必要があります。遊ぶ時間の中で上手に調整できることが望ましいですが、場合によっては就寝や食事、勉強の時間にまで影響することが心配されます。スマートフォンが広く普及しているからこそ、1日の利用時間を決めて長時間の利用は控えることで、生活のリズムも安定し、学力の向上にも繋がると考えられます。

また、令和2年1月から続くコロナ禍の影響として、「自尊感情」の低下が見られます。新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、児童生徒が協力して達成していく運動会や修学旅行といった学校行事の延期や中止により、自己肯定感を高めていく機会が減少したことも影響していると考えられます。学校では、可能な限り学校行事を実施できるよう工夫を重ね、日々の学校生活の中でも児童生徒が自分に自信を持ち、お互いに認め合える経験を積めるよう取り組んでおりますが、このような時だからこそ、地域や家庭との連携、協力が非常に重要です。

学校質問紙については、各校に足りない点や更に伸ばしていく点を振り返る機会として、今後の学力向上を含めた取り組みに活かしていきます。特に、ICTを活用した授業や教育活動の取り組みに関しては、学校間での情報共有を図りながら、児童生徒だけでなく、教員の負担にも配慮しながら、丁寧に進めていきたいと考えています。

③ 恵庭市の学力向上に向けた取組について

基礎学力の向上を図るため、市内各校では、算数・数学の授業にTT（チームティーチング）や習熟度別学習などの少人数指導を取り入れ、きめ細かい指導に努めてきました。恵庭市教育委員会では、分かりやすい授業作りのため、平成26年3月に市内13校の全教室に実物投影機を配置、令和元年7月までに市内13校全校に電子黒板を配置しています。

また、令和2年度までに「GIGAスクール構想」に基づくタブレットパソコンを、小学校5年生以上の児童生徒に整備したとともに、指導にあたる教職員のために研修会等を実施するなど、これまで整備してきたICT機器の指導力・活用力の向上に努めています。

平成29年度から「恵庭市小中連携教育推進委員会」を立ち上げ、年間3回の合同会議を開催して、義務教育の9年間を見通した「小中一貫教育」の推進に努めています。同委員会は、4プロジェクト（1.恵庭中・恵明中学校区、2.恵北中学校区、3.柏陽中学校区、4.恵み野中学校区）に分かれ、各プロジェクトには6委員会（①高学年・中1、②生徒指導、③学力向上、④体力向上、⑤児童会・生徒会交流、⑥特別支援）を設置して、小学校と中学校が互いに情報交換及び交流を通して、円滑な接続につながるよう、小中連携教育を推進しています。

恵庭市学力向上アドバイザーより

令和3年度は、新学習指導要領が全面実施され、「令和の日本型学校教育の構築」に向けた新しい学校づくり元年です。すべての子どもたちの可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させながら、学習指導要領実施の柱である「主体的・対話的で深い学び」の授業改善に向けて、各校が努めてまいります。今後も、教育委員会と学校、家庭や地域とも連携して、「学力向上に向けた取組」を積み重ねていくことが必要です。

